広報 おだわら
No.503
発行　小田原市役所　編集　広報課　〒250 小田原市荻窪300番地　☎33－1261
平成元年3月15日

人口・世帯		（2月1日現在）
人口	190,489人	（前月比－6人）
世帯	59,467世帯	（前月比＋19世帯）

早く咲かないかな みんなで植えた アジサイ通り

緑豊かなまちづくりを目指し、城山公園周辺をアジサイの名所にしようと、二月一二六日、アジサイ植栽会が開かれました。この会は、市費や市民の寄付を積みあげて二年目になる「ふるさとみどり基金」の利子を充てて行われました。

当日は、地元自治会や一般市民ら四百二十人が参加し、城山公園とその周辺の沿道五カ所に分かれて、高さ二メートルの苗木三千本を次々に植えました。

アジサイは開花期間が長く、順調に根付けば六月には花開き、早春の梅、四月の桜、五月のツツジに続き、訪れる人の目を楽しませてくれるでしょう。

しっかり根付くよう手際よく土をかける　山根市長も参加して

歴史よもやま話に耳を傾けて

春日局と小田原藩

一月一千四日、中央公民館ホールにおいて、今話題の春日局（かすがのつぼね）と小田原について語る催しが開かれました。

舞台には、NHK大河ドラマ「春日局」で実際使用されている美しいふすまや衣装などがセットされ、お勝の方を演じる女優・東ゆき美さん、チーフプロデューサー渋谷康生さんを迎えての対談では、ドラマ制作での裏話や苦労話などを楽しく披露されました。

また、神田松さんの講談「春日局」やフィルムによるゆかりの史跡紹介などに、会場いっぱいに詰めかけた市民は興味深く聞き入っていました。

ドラマ「春日局」の話題で会場は盛り上がりました

ミス小田原コンテスト 北條五代祭りパレード

城下町小田原の最大の観光行事「小田原北條五代祭り」が3月31日・小田原城を中心に盛大に行われます。

市民のみなさんが参加する祭りとして、ミス小田原市観光協会では、ミス小田原市と北條五代祭りパレードの参加者を募集します。奮ってご応募ください。

◆**募集対象**　3人

◆**応募資格**　市内に在住、在勤の満18歳以上25歳までの未婚の女性（ただし、3月14日現在）

◆**応募方法**　はがきに住所・氏名・年齢・身長・電話番号を書いて、4月8日（土）までにお申込みを。

〒250小田原市城内1
21小田原商工会館内
小田原市観光協会☎5502

◆**申込み・問い合わせ先**

○市内在住、在勤または在学で、満16歳～60歳の女性16歳～30歳を対象に参加できる舞踊経験者が望ましい方

○主催者が用意する衣装を着けることに異存がない方

無料奉仕で参加できる方

◆**申込方法**　はがきに住所・氏名・年齢・身長・現在の職業を書いて、4月8日（土）までにお申込みを。

〒250小田原市城内1
21小田原商工会館内
小田原市観光協会☎5502

◆**応募資格**　男子30人（先着順）

○市内在住、在勤または在学で、満16歳～60歳の健康な男子

○1日間、本市の観光行事に参加できる方

◆**申込方法**　はがきに住所・氏名・年齢・身長・現在の職業を書いて、4月14日（金）までに観光ホールへ。

○パレード　4月30日（土）

事及び公的行事に参加できる市民と教育熱心な方

◆**申込方法**　所定の募集申込書に記入の上、カラー全身写真1枚、白黒上半身写真（5×5センチ）2枚の計3枚を添付し、3月31日までにお申込みを。

◆**審査・発表**　第1次審査は書類審査で行います。最終審査の結果発表は、3月下旬に行う市民会館ホールで行います。

◆**応募資格**　男子30人（先着順）

○市内在住、在勤または在学で、満16歳～60歳の健康な男子

○1日間、本市の観光行事に参加できる方

◆**申込方法**　はがきに住所・氏名・年齢・身長・現在の職業を書いて、3月31日までにお申込みを。

◆**審査・発表**　第1次審査は書類審査で行います。最終審査の結果発表は、3月下旬に行う市民会館ホールで行います。

◆**パレード**　4月30日（土）

事及び公的行事に参加できる市民と教育熱心な方

◆**申込方法**　所定の募集申込書に記入の上、カラー全身写真1枚、白黒上半身写真（5×5センチ）2枚の計3枚を添付し、3月31日までにお申込みを。

◆**審査・発表**　第1次審査は書類審査で行います。最終審査の結果発表は、3月下旬に行う市民会館ホールで行います。

◆**パレード**　4月30日（土）

概要をお知らせします

何から始めよう みんなのまちづくり

表情豊かなまちを

野川由美子さん　中島直子さん　特別対談

昨年の十一月二十六日に県と共催で開催した「おだわらシンポジウム」持、向上をめざす法についての概要をお知らせします。考えるきっかけとしてご来場いただけなかったみなさんへ、小田原の景観を保持、向上をめざす法についての概要をお知らせします。

今回のシンポジウムのテーマは「なにから始めようみんなのまちづくり」で、会場は大会場の小田原市民館は百人以上のみなさんが来場されました。

シンポジウムは次のように進められました。まず、わたしの好きなおだわら写真コンテストの表彰式が行われ、次に野川美子さん（女優）と中島直子さん（群馬県女子大学助教授）の対談が行われました。そして、後半は「パネル討論会」の開催となり、「景観づくりについて」活発な議論がなされました。

一人ひとりに賞状と記念品を

写真コンテスト

入選者の表彰式が

「わたしの好きなまち小田原写真コンテスト」は、見過ごしがちな自分の住居は勿論のこと、写真を通して改めて見直す契機となりました。

多数の応募作品の中から三十一人の方の作品が選ばれ、会場で表彰式が行われました。舞台に大きなスライドで写されたり、入選作品を背に、市民が賞状と賞品を手渡しました。なお、入選作品は四月一日から三月一日まで市庁舎ロビーに展示されております。

会場からもさまざまな意見が

会場からは、小田原の景観を考えるとき市街地だけでなく、周辺部を含めた広域的な考えが必要だという意見、また、各地域の歴史を考慮した景観づくりを希望する意見、「歴史的建造物を保存する会」のメンバーとして意見や要望を出された方もいらっしゃいました。

パネラーの意見を受けて助言者が

まちづくりを本格に出て、人や文化を含めた全体を考える意見、「景観は、市民の力」という意見、「歴史的建造物を保存するためには住民の力が必要だ」という意見、「歴史的な建造物を保存するためには住民の力が必要だ」という意見、「歴史的な建造物を保存するためには住民の力が必要だ」という意見、「歴史的な

小田原スケッチ今むかし ⑫

絵と文・小暮 次郎

郷土愛をもった機動的なまちづくりを

小田原の人は保守的で新しもの好きだ。

まちづくり推進の場を

今回のシンポジウムのようなまちづくりの場がもっとあってもよいのではないか。

中村直子さん

楽しい対談の内に多彩な意見が

討論会では最初に県知事が開発紹介をしました。

まず、景観は歴史観、農村景観、都市景観に分類できます。

まず、景観は歴史観、農村景観、都市景観に分類できます。

まず、それぞれの景観をどうするのかを考えなければなりません。

人工的な景観を生かすためには、人工的な空間の多様性を生かすことが必要です。

人工的な空間の多様性を生かすためには、自然の生態系のバランスをとることが必要です。まだ、人工的な空間の多様性を生かすためには、都市計画の中に自然コントロールが必要です。

まだ、景観の構成する要素は主に視覚的なものですが、鐘の音や香りなど五感で感じるすべてのものを景観要素と考えるべきです。

上田さん

小田原のまちづくりは温暖な気候、おいしい水、美しい景色と、いった良さを再認識。

同時に閉鎖的であるなどのイメージ面も知ったのではないでしょうか。そして、市民と行政が一緒になって、まちづくりという共同作業に取り組むことが必要です。

戸田さん

まちづくりには遊び心とアイデンティティーが必要です。

田中さん

毎年行う江戸川・久野川清掃は手入れの人が参加した。市・県・民間企業と一体となっての清掃に参加した人たちの意識が上がったことです。

今後のまちづくりには役立つのではないかと考えます。

体験に基づいて

これからも同様の考え方で進めるべきもいます。

谷 ひささん

美化運動を通じて行政の考え方を理解した。行政の体制をなぜ推進するべきかを知った。

大森スヾさん

百歳に

市長がお祝いに

小田原のまちづくりは温暖な気候、おいしい水、美しい景色と、いった良さを再認識。

同時に閉鎖的であるなどのイメージ面も知ったのではないでしょうか。そして、市民と行政が一緒になって、まちづくりという共同作業に取り組むことが必要です。

戸田さん

まちづくりには遊び心とアイデンティティーが必要です。

曽比の大森スヾさん

早川の谷ひささん

北方領土明日の復帰へ　今日の声

大正時代、御用邸には宮様が避暑・避寒に

高い石垣の上に立つ白亜の隅櫓、背後は緑濃き松の林に囲まれた清楚な存、たたずまいである。これは、大正時代の恵ぶ小田原の御用邸の景観である。明治三十五年御用邸が開設され以来、大正時代は幼少の宮様がよく避暑に来邸され、また、大正時代の恵ぶ小田原の御用邸は、

こんにちは ちびっ子レポーターです ⑥

自治会や交通安全、防犯、消費生活など、私たちの毎日の暮らしに直接関わる仕事のほか、市民活動や市民会館の運営も行なう幅広い仕事をしている市民生活課を訪ねお話を伺いました。☆ ☆ ☆

小野田 自治会は部についているのですか。

課長 市内には一二五の連合自治会があり、その下に二百四十二の自治会、さらに二百五十三の組があります。約九百四ハーセントの家が自治会に加入しており、みなさん相談しながら地域を住み良くしていく活動をしています。

杉野 小田原の市中には、旅館自粛条例と、駐車場法等が定められ、駐車場法等は定める地域内の駐車場の数、ここに関係する課長、市街地の駐車場の数は、市内の約六十一ヘクタールの内、約六割に上っています。これは全国的に見ても高い数です。

●レポーター
大窪学校一年
小野田大介くん
杉野 愛 さん

●聞き手
鳥海市民生活課長

わたしの提案 色の調和がとれた城下町に

城下町の落ち着いた風情は大切にしたいもの

■城下町にふさわしい色でまちづくりを（前川 石塚さん 61歳）

私は、かねがね歴史と文化のまち小田原をこよなく愛しています。そして、城下町にふさわしいしっとりとしたまち小田原を望んでいます。

そのまちの色の調和についてです。

そは、まちの色の調和についてです。

そは、まちの色の調和についてです。

そは、ま